

「主において  
常に喜びなさい」

(フィリピの信徒への手紙 4・4)



受けるより  
与えること  
の方に  
より大きな  
喜びがある

まわりを見回せば、  
安心して喜べる状況が  
あまりない  
ことが多い。

日々の心配事、  
社会の不条理、  
国家間の  
争いごとなどの  
現実を前にして  
私たちは落胆し、  
行動することを  
あきらめて、自分の  
殻に閉じこもって  
しまう危険がある。

それでも神様は、このみ言葉を  
とおして喜びなさい、  
とよびかけている。

本物の  
喜びの  
鍵は  
何だろう？

「どんな困難であろうと、  
私たちが常に喜んでいられる  
理由が一つあります。

それは、キリスト者として  
真剣に生きることから  
くる喜びです。  
そのように生きるとき、  
イエスご自身が私たち  
の内に生き生きと存在し、  
イエスと一緒に喜びが  
ないはずがありません。

イエスは、真の喜びの源です。  
私たちの人生に意味を与え、  
光をもって導き、  
過去のことや将来に対する  
恐れから解放してくれます。  
今後遭うかもしれない  
試練や誘惑、あらゆる困難  
を乗り越える力を  
与えてくれます。」<sup>1</sup>

この喜びがあるなら、  
他の人を温かく迎える心、  
自分の時間を  
周りの人たちのために  
使おうという気持ちが  
生まれるでしょう。



僕ら  
の  
経験:

最近シリアで、  
戦争の危険もある  
なか、若者たちの  
グループが、福音の  
経験を分かち合う  
ために集った

「一切を失って、  
難民キャンプで  
生活する若者、  
愛する人たちが死んで  
いくのを目にした若者  
など、悲しみと希望、  
神の愛への英雄的な  
信仰の話がたくさん  
語られた。

彼らは、周りに『いのち』  
をもたらそうと  
固く決心した。

それぞれの町で、協力者を  
得てフェスティバルを開催  
したり、戦争で中断された  
ままの学校や公園の修復も  
した。

また、10組ほどの難民の  
家族を支援している。



キアラ・ルービック  
の言葉が心に浮かぶ。

「キリスト者の喜びは  
ちょうど、涙のあとに輝く  
太陽の光のよう、あるいは  
血に染まった大地から咲き  
出る一輪の薔薇の花  
のようです。

その喜びは、苦しみ  
から抽出される愛の真髓。  
それゆえに、天国の  
前触れのように、  
使徒的な力を持  
って  
いるの  
です」

2



戦禍にあっても、  
神の愛への信頼と  
希望を周りの人々  
に伝えるシリアの  
兄弟姉妹たち。  
彼らの中に初代  
キリスト者たちの  
力強さを見る。

シリアのみんな、キリスト教  
を生きるとはどういうことか  
を教えてください！」

1キアラ・ルービック「喜びへの招き」チツ  
ターメパ誌31号 (1987/22)  
2キアラ・ルービック「喜び」若者の  
聖年、ローマ1984年4月12日